

鏡野町の

子育て支援制度について①

鏡野町の子育て支援制度について、3回に分けてご紹介します。

*不妊治療支援事業助成金支給制度

子どもを希望されながらも、不妊症のため子どもを授かることが困難なご夫婦の方々へ、特定不妊治療（体外受精及び顕微授精）に要した費用の一部を助成します。

1回あたりの治療につき、10万円を上限とし、年度2回、通算5年まで

*病児・病後児保育事業

保護者の子育てと仕事の両立を支援するため、病気及び病気回復期で安静の必要があり、通園・通学が困難な生後8ヶ月から小学校3年生までのお子様を対象です。



○病児保育室「たんぽぽ」
○こどもデイケアルーム「さくら」
鏡野町国民健康保険病院
松尾小児科クリニック

1日の利用料 2,000円

(ひとり親家庭等医療給付対象世帯は1,000円)

お問い合わせ先

健康増進課 子育て支援係 電話(0868)54-20015

館長のガラストーク



このゴブレット（脚付杯）は、ロシア皇帝ニコライ1世（在位1825～55年）が1850年頃に皇室ガラス工房で制作させたものです。六角形のガラスの口周りを円形に削って金彩を施し、それを六角形の中空の脚部（ステム）が支えています。

全体が金色に輝いているように見えますが、金彩を使っているのは口周りと脚部の角の部分、台座の端の部分、それに六角形のそれぞれの面を縁取る枠の部分だけです。

各面の中央に、花が描かれた丸窓のような装飾があり、その丸窓の周囲に黄土色のエナメル彩で唐草模様が描かれています。このエナメル彩はガラスの下の部分、脚部にも用いられ、これが金彩のような効果をあげ、全体に金色の輝きを与えているのです。

これらが皇帝の工房で作られたということは、ガラスの底に刻印されたさまざまな文字や鷲の文様などから分かります。ボヘミアでリーデラー族がウランガラスを開発したのが1830年代から40年代にかけてですから、1850年代にロシアでこうした質の高い作品が作られたということは、当時の交通網や情報網から考えると、ウランガラスが驚異的な速さでヨーロッパ中に伝わっていたということを物語っています。

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

★特報! 「ロシア皇帝のゴブレット」は、7月12日(火)20:54からTV東京系(TVせとうち)で放映される「開運!なんでも鑑定団」に登場します。是非ご覧ください。

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話(0868)44-7888